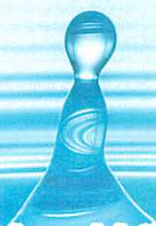


平成 26 年度
亜熱帯森林・林業研究会
研究発表論文集



ホルトノキ (学名: *Elaeocarpus sylvestris* (Lour.)Poir.)



亜熱帯森林・林業研究会
〒905-0012 沖縄県名護市字名護 4605-5
沖縄県 農林水産部 森林資源研究センター内
Phone 0980-52-2091 Fax 0980-53-3305

ご挨拶

平成26年度亜熱帯森林・林業研究会を開催するにあたりご挨拶申し上げます。

本日は会員の皆様をはじめ、亜熱帯森林・林業研究会に関心をお持ちの皆さん、多数のご参加をいただきありがとうございます。

本会は、平成15年3月に誕生し、平成17年8月に第1回の研究発表会が開催され、今回で10回目を迎えました。回を重ねるごとに、研究発表も広い分野におよび、件数も増加してきております。会員の皆様の日頃の努力に改めて敬意を表する次第であります。

さて、今日、国において「攻めの農林水産業」の展開に向けた検討が進められ、昨年12月には政府により、今後の施策の展開方向等が「農林水産業・地域の活力創造プラン」としてまとめられました。森林・林業についても、新たな木材需要の創出と国産材の安定的・効率的な供給体制の構築により、林業の成長産業化を実現し、また、森林の整備・保全等を通じた森林吸収源対策を推進するとともに、多面的機能の維持及び向上により、美しく伝統ある山村を次世代に継承するとされています。

一方で、沖縄県の森林・林業に対する県民の要望は多様化しており、林業振興による、地域経済の活性化や雇用の促進などへの根強い要望がある一方で、自然環境の保全を求める声も高まっています。そのような中、ヤンバル地域、西表島を含む琉球諸島において自然遺産登録推薦を目指す取り組みが進められており、関心が集まっているところであります。

今後は、自然環境の保全と林業生産の更なる調和を図っていくことが最大の課題であり、自然環境への負担の少ない林業技術の改善等森林の持続可能な利活用が強く求められています。

このような状況の下、関係者が日頃の研究成果や現場からの問題や提案等を持ち寄って議論し、問題意識を共有することは、今後のよりよい発展につながる大変意義深いことだと思います。

発表者の皆さんには、多忙の中、報告を取りまとめ、話題を提供していただき心から感謝申し上げます。総会が建設的で、発表会が活気に満ちたものとなり、会員の皆さんの積極的な参画によって、本会の活動がますます有意義なものとなることを期待して、会長あいさつとします。

平成26年8月29日

亜熱帯森林・林業研究会会長 金城一彦

目 次

大正 10 年測図 5 万分 1 地形図で見た国頭村の地域景観	1
森林総合研究所関西支所・北海道大学大学院農学院	齋藤 和彦
親川司法書士事務所	親川 栄
在那覇奥郷友会	宮城 邦昌
沖縄勤労者山の会	上原 賢次
やんばる地域の亜熱帯林における台風被害木の特徴	7
琉球大学大学院農学研究科	小多 祥基
琉球大学農学部	高嶋 敦史
	芝 正己
西表島古見におけるイジュの開花期間	13
森林総合研究所 林木育種センター 西表熱帯林育種技術園	板鼻 直榮
	古本 良
	尾坂 尚紀
	楠城 時彦
西表島における希少樹種トゲミノイヌチシャの着果状況調査及び種子の特性評価	17
森林総合研究所 林木育種センター 西表熱帯林育種技術園	楠城 時彦
	尾坂 尚紀
	板鼻 直榮
	古本 良
八重山地方に自生する有用樹の増殖方法の検討	21
森林総合研究所林木育種センター西表熱帯林育種技術園	尾坂 尚紀
	板鼻 直榮
	楠城 時彦
テリハボクの枝性における家系間変異	25
森林総合研究所林木育種センター	加藤 一隆
	花岡 創
森林総合研究所 林木育種センター 西表熱帯林育種技術園	板鼻 直榮
低コストによる外来種対策(ギンネム)と海岸林再生への取り組み	30
九州森林管理局 西表森林生態系保全センター	渡邊 昭博
	井田 篤雄

沖縄におけるホルトノキのファイトプラズマ病害(速報と解説) 36

琉球大学農学部 亀山 統一

沖縄県森林資源研究センター 伊藤 俊輔

沖縄県産木材の高度利用に関する研究 40

—耐蟻性試験—

沖縄県森林資源研究センター 伊波 正和

平成 26 年度 亜熱帯森林・林業研究会研究発表論文集

平成27年 7 月発行

編 集 亜熱帯森林・林業研究会 事務局

発 行 亜熱帯森林・林業研究会

〒905-0012 沖縄県名護市字名護4605-5

TEL:0980-52-2091 FAX:0980-53-3305

